



コオニユリ

1、コオニユリの人工授粉

1) 葦毛湿原のコオニユリ

コオニユリはユリ科ユリ属の多年草で、東アジアに分布し、日本では北海道から九州の山地の草原や低地の湿地に自生しています。オニユリは葉の根元にむかご（珠芽）が付きますが、コオニユリはむかごが付かず、種子ができます。種子から発芽した個体（実生）は花が咲くまでに5～8年ほどかかると言われています。

葦毛湿原のコオニユリは絶滅危惧種ではありませんが、1990年代を最後に地上絶滅して葦毛湿原では見られなくなっていました。2013年1月から開始した大規模植生回復作業により、2017年に埋土種子から復活して花を咲かせました。しかし、その数は少なく増えませんでした。2020年に調査すると花は咲いても種子ができないことが分かり、2021年から人工授粉を始めました。コオニユリは葦毛湿原では、およそ20年ぶりにやっと復活した絶滅寸前の希少な植物です。

コオニユリ人工授粉一覧表

番号	地点	開花数	結実数
1	L地点	1	0
2	L地点	9	8
3	L地点	1	1
4	F地点	6	6
5	F地点	5	5
6	F地点	1	0
7	Y地点	3	2
8	Y地点	1	1
9	Y地点	0	0
10	O地点	1	1
11	M地点	1	0
12	M地点	1	0
合計		30	24

2) コオニユリの人工授粉

コオニユリの人工授粉は、2021年度は2回しか行えず、結実したのは3花だけでした（葦毛通信 No. 115 参照）。しかし、人工授粉すれば結実することが確認できたので、今年度は7月25日から8月16日までに12回人工授粉を行いました。

2020年の結実調査で、開花しても結実しないのは自家受粉では結実しないためと考えられたので、今年度の人工授粉も



L地点一2 開花状況（2022年8月3日）



人工授粉後（2022年7月31日）

綿棒を使い、他の個体の花粉を受粉させました。使用した綿棒はコオニユリ専用で1本だけです。受粉期間中、同じ綿棒で受粉作業を行いました。前頁右写真は人工授粉後で、めしべの先端に花粉がついていることが確認できます。

コオニユリの最初の開花は1花のみで、2年目に3～5花程度、3年目に9花が確認できています。最も開花数が多いのはL地点の2の開花後3年目の個体で、1年目と2年目の茎が枯れたまま根元で残っており、徐々に太くなり、草高も180cm程度で高くなることが確認できています。L地点の2の個体は9花が開花しました。前頁左の写真では、下の2花の開花が終わった状態、その上の3花が開花し、その上の4花がツボミの状態です。

右写真はF地点の4～6の3個体の写真で、左から4(6花)→5(5花)→6(1花)で、4と5が開花して2年目、6が1年目の個体です。



Y地点—7 結実状態



F地点4～6 開花状況(2022年8月2日)

コオニユリの花は下向きに咲きますが、結実すると上向きになり膨らんでいきます(左写真)。

開花した花は総数30花ですべてに人工授粉を行いました。最初に開花した花や開花の確認が遅れた花は受粉がうまくいかず結実しませんでした。それでも、結実したのは開花した30花中、24花で、全体の80%が結実しました。

コオニユリは実生から開花までは数年かかるようです。葦毛湿原では1990年代に地上絶滅し、2017年に復活して開花が確認できましたが、埋土種子からの復活であれば、2013年から大規模植生回復作業を開始しているので、作業後4～5年で開花したと推定できます。コオニユリの復活は長い時間がかかりましたが、今年度は12株に増え、これから順調に増えていくものと期待していました。

2. コオニユリが盗掘されました！

盗掘があったのは葦毛湿原のY地点で、3株のコオニユリ(7～9)が確認されていました。そのうちの2株が盗掘され、1株だけが残っている状態です。残っていたのは7で3花中2花が結実した個体です。この7は風で倒れてしまったので、支えを作って結実が進むようにしていた個体です。これ以外の2個体は8と9で、8は1花が開花・結実して種子ができていく途中でした。9は発芽しても開花しなかった個体です。

盗掘されたところは木道から30mほど湿地内部に入ったところで、2か所穴があげられ

ていました。また、花が落ちて目立たなくなってから盗掘しており、あらかじめ下見して位置を確認して目立たない時期を選んで盗掘を行っていると思われます。

8月11日にはすでに開花は終了しており、また花が咲かなかった株も含め2株を掘り取っているところから、花が目的ではなく、球根を目的に掘り取ったものと思われる。

今回の件は、明らかに文化財保護法違反の事例で、8月26日に豊橋警察署に被害届を提出しました（犯罪事件受理番号：R4年1393号）。



Y地点のコオニユリ・盗掘前の状態（8月11日）



盗掘前の状態：コオニユリ7・8・9（2022年8月11日）

撮るのは写真だけ、持ち帰るのは思い出だけ、希少な生物が絶滅せず、次の世代も見ることができるよう大切に见守ってほしいものです。



15 陸の豊かさも守ろう





盗掘後の状態（8月25日）



盗掘後の状態（8月25日）